

夕なぎ

潮風の香りに
人魚は目をつむる
やわらかな頬に
金色の涙がつたう

ひとを

愛した人魚が
声をうしなっても
なりたかったのは
わたし

声をうしなうほど
沈黙に愛されて
わたしは
詩人になる